

# 公益信託世田谷まちづくりファンド

## 第26回助成事業 審査講評

### まちづくり活動部門

#### 【1回目応募グループ】

##### < 2-1 緑友会 >

- ・永く地域のボランティアの方々によって校庭が維持管理されているということを知らない人（保護者も）は多いと思います。本ファンドを通して、支障をきたしていた機材が整備され、安全な活動環境を整備されるとともに、この活動が認知され、ともに活動する仲間や、多様な応援・支援が集まってくるような取り組みにもチャレンジしていきましょう。
- ・継続的な活動を続けられていて、非常に素晴らしいと思います。この活動を持続させていくためには、活動の喜びを世代を超えて伝えていく広報の方法を検討することが大切です。また参加する学校を増やしたり、おやじの会などとの連携も検討いただければ幸いです。
- ・小・中学校の緑は市民のものだと認識させてくれるような、有意義な取り組みだと思われます。できるだけ活動を外に開き、活動者が市民であることを道行く人に知ってもらう工夫や「仲間に加わりませんか？」などという呼びかけを通じて、会員の拡大を実現していただきたいです。余力があれば、小・中学生たちとの交流の機会を設けるのもよいでしょう。

##### < 2-2 特定非営利活動法人 せたがや喜多見農とみどり >

- ・「都市農業と食」は、喜多見地域の現状に沿ったテーマであり、地域住民の関心も高いテーマだと思われます。審査時に発言されていたように、実施するイベントにはできる限り多くの方々に参加できるように工夫していただき、賛同者を増やして大きな活動に育てていきましょう。

- ・映画上映会も料理教室座談会も予定参加人数に対して支出が大きいと思います。参加人数をもっと増やす工夫とか賃借料の経費負担を減らす方法を考えるとかしないと継続的な活動が厳しいと感じました。頑張ってください。
- ・喜多見の風景の特徴ともいえる農とみどりに、いろいろな人がふれることができる機会を提供することはとてもすばらしいと思います。収支計画には参加者数が15名とありますが、より多くの人に関わることができる機会につなげていただけるといいと思います。  
また、地域住民に向けての活動か？区内、都内と広域からの参加を対象とするか？喜多見のことを広く知ってもらうことが目的なのか？地域の中で取り組む担い手を育成していきたいのか？など、対象や目的を意識して、この活動を通して何に力を入れていけば良いかを試行しながらチャレンジしていただければ幸いです。

### < 2 - 3 東京ヒューマンライブラリー協会 >

- ・世田谷でのヒューマンライブラリー、ぜひ多くの方々に体験していただきたいと思います。多様性の理解に加え、様々な世代をつなぐ大きな可能性を秘めていると思います。まずは体験いただくのが一番。こうした機会提供こそが、小さくとも大いなる一歩のように思います。大きな活動に育っていくためにも、シブヤ大学など様々な団体との連携を進められてはと思います。今後の展開を楽しみにしています。
- ・これまで通り地道な活動を継続していただければ、次年度以降も継続して支援できると思います。マイノリティグループを支援する新しい手法に期待しています。
- ・さまざまな境遇で生きてきた人の人生を読む（対話する）ことにより、人間の多様性を知り、生きづらさをかかえて悩む人が多い現代に、ありのままに生きていく勇気を与える素晴らしい取り組みだと賛同します。しかし、この活動を社会に拡げ定着させる一番のカギは多様なジャンルの本（語り手）と図書館（場）を増やすことと考えます。生き方に悩んだ時、カフェのように気軽に訪ねられる図書館を各所に造ってほしいと願います。

## < 2-4 音楽療法せたがやくらぶ >

- ・過去2年間の自主的な活動を踏まえ、ニーズや課題が明確になってきたことと思います。本ファンドをきっかけに、皆さんが大切にしている思いを、持続可能な形で発展させていくための思考錯誤に取り組んでいただけたらと思います。今までリーチしきれなかった男性の参加なども、ファンドのネットワークを活用したりしながら、連携にチャレンジしてください。
- ・音楽療法の場が地域で開かれることは大変素晴らしいことです。ケア的なアクティビティ（セッションルームに閉じてしまう）をどう地域へ波及させるかが一番の課題だと思います。参加者の多様性を広げるためにも、さまざまな地域の活動団体や施設との連携を模索していただけたら幸いです。
- ・音楽を通じて高齢者等の交流が進み、楽しみながら健康を保つ身近な活動を高めるよう、参加者の募集の拡充と地域活動団体との連携を図っていただきたい。

## < 2-5 認定 NPO ホームケアエキスパーツ協会

### コミュニティ音楽療法グループ >

- ・8年間の活動中に会った方たちのエピソードは、貴グループの活動の意義を理解するのに十分でした。ぜひ、世田谷に定着してほしい活動ですので、応援したいと思いました。個々の方に対する医療や福祉の活動は、ともすると、まちづくりとは関係ないと線引きされがちです。これに対して、貴グループの提案は、音楽療法のプログラムに誰もが参加できるよう移送の活動グループと連携して移動手段を確保するという取り組みでした。つまり、個々の暮らしを豊かにしていくためには、個を支援するだけでは不十分で、地域を変えていく必要があることを提起しています。医療・介護・福祉・まちづくりは一体となって取り組むことの大切さがわかりました。貴グループの活動はそれらの架け橋となるような存在です。今後に期待しています。
- 一方で、新たな取り組みに着手するわけですから、進め方や体制など多少の試行錯誤は必要となるでしょう。心地よく参加してもらえているか、活動を続けるのに負担はないか、一步一步確かめながら進んでいってほしいと思い、プログラムの回数を減らし、その分助成額を減額しました。

審査会の会場では、さっそく他のグループと意気投合されていたようですが、ぜひ、連携した取り組みを模索してほしいと思います。

- ・謝金が全体の7割以上だったので、今後の継続活動を考えると工夫の必要があると思い減額致しました。今回、音楽療法のグループが他にもありましたので連携する事で出来る事が広がると思います。期待しています。
- ・これまで私は「音楽療法」と「まちづくり」が同じ舞台にのっていることを見る機会が少なかったと思っているのですが、今年度音楽療法の2つの団体がまちづくりファンドにエントリーしてくださったことで新たな出会いと発見を得ることができ感謝しております。  
「コミュニティ音楽療法」は地域社会を対象とした取組ということで、まちづくりファンドを活用していただく中で広くまちづくり活動団体や、地域コミュニティの現場に、コミュニティ音楽療法の可能性を広めていただきたいと思います。そのためにはビデオや冊子等の活動を紹介する媒体づくりは効果的だと思います。  
またすでに「そとでる」さんとの連携をされているように、ファンドの他団体との連携や、ノウハウの共有、地域のネットワークに繋がっていただき、「音楽療法×ファンド団体」の掛け算による新たな地域課題解決の取り組みが生まれてくることを期待しております。

## < 2-6 世田谷みどり 33 協働会議 >

- ・豊かなコミュニティや個性ある街並みの形成、さらには次世代に街を継承していくテーマに、「みどり」がなり得ることは誰もが認めるところです。総面積に民有地のみどりが占める割合の高い世田谷において、コミュニティガーデンの活動を積極的に広めようとする貴グループの提案は、世田谷のまちづくりにとって大きな魅力です。なかでも、市民の立場から中間支援の役割を提案している点には注目しています。  
ご存知のように、世田谷にはみどりを愛する方がたくさん暮らしています。これまでも、区の施策として、市民の自発的な活動として、みどりのまちづくりの取り組みが活発に行われてきました。世田谷トラストまちづくりの活動もその一つでしょう。成功も失敗も含めて、過去の試行錯誤の経験は世田谷のまちづくりの財産であり、それを共有しない手はありません。ぜひ、他の組織との連携を模索してほしいと思います。

様々な組織との協働は簡単ではないとは思いますが、できることは格段に広がります。貴グループの名前には、そのメッセージが込められているのでしょ。世田谷らしいコミュニティガーデンの活動の仕組みづくりを、様々な立場の組織と連携しながら、めざしてほしいと思います。

- ・コミュニティガーデンの普及に向け着実な活動を継続されてきた点を素晴らしいと思います。将来的に助成金に依存しない自律的な運営ができるような事業スキームの確立に期待しています。
- ・「世田谷みどり33」という政策目標がありながら、区内では開発の名のもとに緑地も耕作地も減り続けています。その動きを市民の力で止めようとする貴会の活動は非常に重要なものと認識しています。一方、重要であるからこそこの活動はまちづくりファンドの枠を超えた、区との協働事業等のしっかりとした長期的な活動母体となっただきたいと考えます。

#### < 2-7 世田谷ワーキングマザーの会 >

- ・数多ある育児を担う女性による活動の中で、世田谷ワーキングマザーの会は、等身大のポジションを設定できているように感じます。今後の運営に関しても、企業連携などのきっかけが生まれており、サステイナブルな運営の可能性も見えています。ぜひ着実に成果を上げ、継続しうる体制の構築に取り組んでください。今後の展開を期待しています。
- ・1年間の予備的活動によって、多くの成果が上がり、今後活動を広げていくためのニーズと足がかりが確認できたと思います。「ご近所に頼れるママ友を5家庭つくる」という具体的な目標、拠点に根ざした活動など素晴らしい取り組みだと思ひます。
- ・働きながら子育てを安心してできる環境を地域の中で育てるべく、交流会やワークショップの実施の際、地域活動団体との連携や協力企業を募り、継続した取り組みとしていただくよう期待する。

## < 2-8 和解支援センター東京 >

- ・近隣トラブルの解決は、安心して心地よく暮らすためにとっても重要なことではありますが、日本ならではの「介入の難しさ」などもあるかと思えます。かかわる事の難しさ、法的なリスク等も考慮しながら、「民間だからこそできる」「市民、住民だからこそできる」取り組みとして事業を構築していくための方向性が明らかになることを期待します。
- ・日々の暮らしの中で誰にでも起こるであろう様々な近隣トラブル。これらがスマートに解決されてこなかったのは、それなりに法制度やサービスが超えられなかった壁があるからかもしれません。貴団体の取り組みは、こうした壁を乗り越えるための挑戦であり、大事な一步であると考えます。できたこと、できなかったことをオープンに社会と共有して行って、一步一步構築につなげていただければ幸いです。また、プレゼンテーションの中でお話がかがえたものの、企画書がシンプルすぎたことは残念だと思いました。当事者間のトラブル解決を超えた、地域スケールでのまちづくり貢献をどのように考えているのか？将来的にどのような事業にしていきたいのか？といったことを1回目の今年度の中で意識して2回目以降につなげていただければと思います。
- ・近所のもめ事はいつの時代も起こりうることで、地域の世話人的存在が失われ、町会の力が縮減しつつある現在、必要とされる活動だと考えます。この取り組みを対価の得られる仕事にするのは難しいですが、その意義と実績をPRし続けてゆけば、将来的に必要な職能として広く認識されるようになる可能性もあると思えます。

## < 2-9 まちのわごはん実行委員会 >

- ・昨年度は計画よりも回数を増やして開催されたとのこと、活動に手応えを感じられたようですね。実際に開催してみて、必ずしもうまくいったことばかりではないかもしれませんが、告知や準備、当日の進め方の改善点など、みえてきたことがたくさんあったと思えます。「はじめの一步部門」として応援ができて本当によかったと思えます。今回は昨年度の経験を活かして、さらにパワーアップした企画を提案されました。地域に根付いた活動となることを願って、継続して応援したいと思いました。

ただし、食材や容器などの消耗品費には賛成できませんでした。なぜなら、助成金はいっときしかないお金だからです。今回は助成金をあてるとしても、この先食材費をどう工面していくのか、そもそも食材に毎回費用をかけていくのか、先の見通しを含めて提案してもらえるとよかったかもしれません。今回、私は活動の基盤を整えるためとして、ガスコンロなど備品購入費を助成対象としてみました。食材などの消耗品費については参加費、メンバーの会費、寄付など別の手段も合わせて考える必要があると思いますが、お金や物品の寄付は、活動に対する賛同や貢献したい気持ちの表れでもあります。寄付という形で活動に参加できる仕掛けと考えて、身近なところから協力をはたらきかけてみてはいかがでしょうか。

最近「こども食堂」の活動が報じられるようになりました。食材の入手など活動のノウハウは参考になるかもしれません。多くの「こども食堂」ではフードバンクやフードドライブと連携して活動しているようですが、そうした活動を訪ねてみるのもいいと思います。

- ・ 消耗品費・器財代が全体の8割を占める点が気になり減額いたしました。今後の活動を考えると消耗品費と参加費のバランスを良くしないと厳しいと思います。ワンコインにこだわりがある様なので参加者を増やすなど頑張ってください。応援しています。
- ・ 家庭の味を多世代、多様な人々で一緒に食べること、材料に地元農家の野菜を使うこと、いろいろな団体とつながることにより、「まちのわ」は確実に広がっているようで嬉しいです。今後はお料理自慢の高齢者に腕を振るってもらったり、子ども料理教室を開くなど、単なるお客様としての参加だけではなく、食事を作りもてなす喜びも知ってもらい、食事の楽しさの「わ」も広げていってください。

## < 2-10 いもむし ごろごろ >

- ・ むかしの遊びは日本の財産ですね。それを触媒に多様な世代を結びつけるのは日本の伝統を現代に引き継ぐなど、多種多様な価値があるように思います。ぜひ継続した活動を期待しています。
- ・ 多世代交流の手法として「むかしあそび」に注目された点が面白いと感じました。地道な活動を積み重ね、最終的には自律的な運営ができ

る仕組みも模索してみてください。

- ・「むかしあそび」イベントの参加者募集方法をさらに工夫、協力スタッフの確保、活動資金の確保に努めていただき、絆のある地域社会に繋がるよう、活動基盤をつくっていただきたい。